



残留油分測定のプロチャート《株式会社コーエキ》

①試料の計量

数を数える ⇒ 結果の表記は個数あたりとなります。
 重さを量る ⇒ 結果の表記は重さあたりとなります。
 表面積を求める ⇒ 結果の表記は表面積あたりとなります。

②油分の抽出

あらかじめ洗浄した適当な大きさの容器に試料を入れ、適量の四塩化炭素を加えて、残留油分を抽出します。
 （超音波抽出、浸漬、掛け流しなど）



③標準試料の作成

検量線作成用に濃度既知の標準試料を作成します。
 入手が可能であれば、残留油分と同等の油（加工油など）。
 弊社で準備する場合は、n-ヘキサデカン（試薬）。

④赤外分光法による測定

赤外分光光度計により3000~2800cm⁻¹付近のC-H結合伸縮振動による吸収の強度を測定します。

⑤検量線を用いた計算

検量線より試料液中の油分濃度を求め、試料の計量結果と使用した四塩化炭素の量より試料あたりの油分量を算出します。

